



PROJECT

バングラデシュの 中所得国化を バックアップ

3つの課題に同時に取り組む

2021年までの中所得国化を目指し、2019年まで年率7%以上の経済成長を続けていたバングラデシュ。低賃金を競争力の前提とした縫製業と海外労働者送金に支えられていた自国の経済構造を転換し、外国投資を呼び込み、国内産業を多角化していく必要がありました。

JICAはこうした状況を踏まえ、2017年度に「投資促進・産業競争力強化プロジェクト」を開始。このプロジェクトは、投資・ビジネス環境改善、経済特区の開発促進、国内裾野産業振興という3つの課題に同時に取り組むことで、経済構造の転換に貢献することを目指したものです。

さまざまな成果収め新たな協力も始動

投資・ビジネス環境改善に向けた取り

組みとして、海外送金制度や長期事業資金の海外借入れ制度の緩和・簡素化に協力しました。このほか、外資を誘致するためにバングラデシュが基幹産業化を目指す自動車産業の開発政策策定に協力し、2021年6月にはその政策が閣議決定されました。また経済特区の開発促進に向け、2019年10月、経済特区庁内に外国企業が107の許認可サービスを一つの窓口で受けられるワンストップサービスセンター（OSSC）を開設しました。さらに国内裾野産業の振興策の一環として、機械・金属加工産業とプラスチック産業を対象に、バングラデシュ国内の企業と日本企業を含む外国企業とをマッチングしました。その結果、外国企業が求める品質・生産管理に近づける取り組みが進み、現地企業の生産レベルの向上につながりました。

プロジェクトは2022年5月に終了しましたが、引き続き投資の促進に協力すべく「経済特区管理・投資促進能力強化プロジェクト」が同月に始動しました。

この10年で進出する日本企業が約3倍に増えるなど、熱い視線を集めるバングラデシュ。2026年には「後発開発途上国」を卒業することが見込まれています。



バングラデシュ：首都ダッカにある経済特区庁に開設されたOSSCのフロントオフィス(2019年当時)

DATA

投資促進・産業競争力強化
プロジェクト

対象国
バングラデシュ

協力期間
2017年5月-2022年5月

VOICE

3つの取り組みそれぞれで成果を残せました



JICA専門家
株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング 田中秀和さん

プロジェクトが目指したのは、外資の現地組み立て産業と部品を供給する現地企業とのリンケージを高めることでした。その目的達成のため支援した、自動車産業政策の閣議決定、OSSCの設置、現地のプラスチック企業と外資のオートバイメーカーとのマッチングや技術指導という3つの取り組みの成果は、どれも次につながる重要なものです。